

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第200回 『発達障害：発達性協調運動症』

作業療法士 塩津 裕康

作業療法士の塩津です。今回は、発達障害の中でも「発達性協調運動症」について記事を書きます。

1. 発達性協調運動症って何？

発達障害という言葉をよく耳にしますが、これはいくつかの診断の総称です（図）。前回（広報あさひ6月号）は「自閉スペクトラム症」という発達特性について説明しました。今回は「発達性協調運動症（以下DCD）」について説明します。

DCDの症状は、いわゆる「運動が不器用」な子どもです。ただ不器用だけでなく、その不器用さが日常生活や遊びなど、生活に影響している場合に診断がつくことがあります。DCDの診断は学童期で5～6%存在すると疫学調査で言われており、他の発達障害の合併が多いとされています。

2. 運動の不器用って？

運動の不器用について、大きく2つに分けることができます。1つは「粗大運動（そだいうんどう）」と言って、体を大きく動かすような活動（例：自転車乗り、スポーツなど）に不器用さを示す場合があります。もう1つは「微細運動（びさいうんどう）」と言って、手先を中心とした細かな活動（例：書字、お箸の使用など）に不器用さを示す場合があります。

加えて、見逃されがちなのが、「口腔運動（こうくううんどう）」と言って、お口の運動に困難さを示す場合もあります（例：発音が不明瞭、食べこぼしが多いなど）。また、視知覚（しちかく）といって、形や空間を目で捉えることに苦手さを感じることもしばしばあります。その結果、読み書きなどでつまづいてしまうこともあります。

3. 運動もスペクトラム？

前回、自閉スペクトラム症の説明で「スペクトラム（連続体）」について触れました。運動もスペクトラムで捉えることができ、運動が苦手な子から得意な子までグラデーションになっている考えで捉える必要があるでしょう。しかし、グラデーションが故に支援が必要だけれど支援されない場合もあります。そのため、より多くの子にとって運動のしやすい環境の工夫といった視点を大人が持てると良いと思います。



図 発達障害のタイプ

※塩津作業療法士は、あさひ園で個別療育相談、朝日小学校で巡回相談を行っています。

8月の子育て支援事業



日程	時間	事業名	内容	対象	場所	予約	担当
8/12(金)・16(火)・ 19(金)・23(火)・ 26(金)・30(火)・ 9/1(水)・6(火)・9(金)	10:00-12:00	あそび場	スキンシップ・ ストレッチなどの 遊	発達が ゆっくりな 子どもと 保護者	ほっとくらぶ	不要	ほっとくらぶ (377-3522)
8/17(水)・9/2(金)		ほっとする 親の会	茶話会				

*最終ページに子育て健康課の子育て事業を掲載していますので、ご覧ください。

*お問い合わせは、各担当者にご連絡ください。